小学校理科校内研修支援事業（平成29年度）

実施報告

釧路市立大楽毛小学校

＊学級数　７　　＊児童数　２２７

支援員学校名	職名	氏名	専門分野
北海道釧路湖陵高等学校	教諭	有野　洋之	物理

【ねらい】　全教職員が理科で使用する薬品の取扱いについて知る。
薬品の管理、実験用試薬の調製、廃液の仕方を知る。
身近にある試薬を用いて、一人ひとりが水溶液の性質を調べられる実験の実践を行う。

【日　時】　２月２７日　15：00～16：00

【場　所】　大楽毛小学校理科室

【参加者】　１７名

【内　容】・薬品の取扱い方法について
・水溶液の性質について

【本事業の成果】

本校では薬品の取扱いについて、全教職員が支援員から学び、共通理解を図ることができた。また、第６学年「水よう液」で性質を調べる学習で活用できる器具を全員が使い、実践できた。

１　薬品の取扱い方法について

小学校で使用する薬品が毒物・劇物・危険物のどれに分類されるか考え、保管方法や注意事項について教えて頂いた。薬品管理簿や廃液の処理の仕方についても知ることができた。

２　水溶液の性質について

(1)　指導の工夫

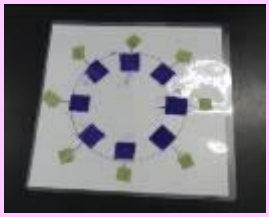
・身のまわりの水溶液の性質を、紫キャベツを使った指示薬で実験して調べる活動を行った。

・試薬や水溶液は身近なものを使っているので、一人ひとりが実験を行うことができた。

(2)　実験での様子

・紫キャベツを小さく切った正方形のキッチンペーパーに浸し、身のまわりの水溶液をそれぞれ垂らしていくと色の変化が見られた。

・酸性とアルカリ性が何色を示すかを考えながら活動することができ、身のまわりの水溶液にもそれぞれ性質があることがわかる活動となった。

・発展的な学習ではあるが、pH 試験紙も合わせて使用することで、より詳しく性質を見ることができることを教えて頂けた。

・水溶液の学習で児童に対し、十分活用できる内容であったので、今後の学習での活用を考えている。